


# つながる世界 わたしたちが思い描く未来

## 【実践者】

|                 |                   |   |
|-----------------|-------------------|---|
| 氏名              | 宮本 渚              |  |
| 学校名             | 茨城大学教育学部附属小学校     |   |
| 対象学年            | 6年2組(34名)         |   |
| 担当教科等           | 外国語               |   |
| 実践年月日もしくは期間(時数) | 2025年10月～11月(5時間) |   |

## 【実践概要】

### 1. 実践する教科・領域

外国語科、学級活動、道徳 C-(18)国際理解、国際親善

### 2. 単元名と単元目標

#### ① 単元名

つながる世界 わたしたちが思い描く未来

#### ② 単元のねらい

世界とのつながりを考える活動を通して、日本人としての自覚や誇りをもち、互いの文化を尊重しながら、進んで他国の人々とつながったり、国際親善に努めたりしようとする態度を育てる。

#### ③ 関連する学習指導要領上の目標

(「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」)

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

### 3. 単元の評価規準

(道徳のため、評価規準はなし)

### 4. 単元設定の理由・単元の意義

#### ① 単元設定の理由

これからの時代を生きる子どもたちにとって、国や文化の異なる人たちと関わって生活していくことが必然となってくる。しかし、子どもたちが日常生活で国や文化の異なる人たちと関わる機

会は多くない。そこで、異なる国や地域の人々の暮らしや考え方にふれる機会を意図的に設定することで、違いを認める姿勢を育み、多文化共生について考えるきっかけとしたい。また、自分の生活が世界とつながっていることに気付く、「自分にできることは何か」と異文化理解や多文化共生を自分事として考えられるようにしたい。

## ② 単元の意義

国や文化が異なっても、同じ人間である。多様な背景をもつ人々と共に生きる力を育むことで、共生社会の担い手となる子どもたちを育てることにつながる。また、他者を知ること、自分自身の文化や価値観を見つめ直す機会にもなる。「日本人としての自分」「地球市民としての自分」を考えるきっかけとなり、本単元の学習を行う意義がある。と考える。

## ③ 児童観

事前のアンケートからも分かるように、子どもたちはこれまでの学習から、国や文化の異なる人々と仲良くするために大切なことを理解している。外国語科の授業においても、英語を使って他の国の人とコミュニケーションを取りたいという意欲がある。しかし、日常生活で国や文化の異なる人々と関わる機会は多くないため、自分事として考える機会が少ないのが現状である。

また、日本にいても、身の回りには外国から来たものや外国の力を借りているものがたくさんあるが、子どもたちは世界とのつながりに気付かずに生活していることが多い。そのため、本単元を通して、子どもたちが日本にいても世界とつながっているということに気付いたり、広い視野で物事を見たりするきっかけとさせたい。

〈事前アンケートより〉

○異文化理解で(国や文化の異なる人と仲良くするために)大切なことは何だと思えますか。

- ・お互いを知ること。
- ・相手の国の文化や習慣を理解すること。
- ・異なる文化を否定しないこと。
- ・自分たちの文化を教えたり教えてもらったりすること。
- ・積極的にコミュニケーションをとること。
- ・違う考え方の人の意見を尊重すること。
- ・他の国のことを知ろうと思うこと。
- ・異なる文化を受け入れること。
- ・言葉が通じなくても交流すること。

## ④ 指導観

子どもたちが国際理解について自分事として考えられるように、ウガンダの子どもたちと交流する時間を設ける。また、ウガンダと日本を比較する際には、食事や学校生活などの子どもたちにとって身近な場面を用いて活動を行う。その際、表面的なことだけでなく、生活している人々の気持ちにも目を向けさせることで、国や文化は異なっても、同じ一人の人間であることに子どもたちが気付けるようにする。さらに、異なる国や文化の人たちと仲良くするために大切なことについて話し合う活動の際には、今の自分や将来の自分にできることを考えさせることで、日常生活へとつなげていけるようにしたい。

## 5. プログラム計画

| 回 | テーマ<br>ねらい  | 方法・内容  | 使用教材等   |
|---|---|--|---|
| 1 | ○ウガンダはどんな国かな<br>ねらい:ウガンダの生活や文化にふれることを通して、ウガンダの人々や文化に親しみをもつ。 | 教師の体験を聞いたり、アフリカの楽器、水運び、もの運びなどを体験したりする活動を通して、ウガンダの生活や文化を知る。 | ・スライド資料<br>・チガンダダンス動画<br>・ウガンダのお金<br>・アフリカンクラフト |

|   |   |  |   |
|---|---|--|---|
|   |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカ布の服</li> <li>・アフリカの楽器</li> <li>・たらい、かご</li> <li>・タオル ・お手玉</li> <li>・ウォータータンク</li> <li>・振り返りシート</li> </ul> |
| 2   | <p>○Hello, Friends!</p> <p>ねらい:あしながウガンダの子どもたちとのオンライン交流を通して、好きなもの・ことや将来の夢などについて、英語でやり取りすることができる。</p>           | あしながウガンダの子どもたちとオンライン交流を行い、自己紹介をし合ったり、好きなもの・ことや将来の夢などについて、英語でやり取りをしたりする。  | ・振り返りシート  |
| 3   | <p>○同じところもあるのかな</p> <p>ねらい:写真を通して、ウガンダと日本に違いや共通点があることに気づき、ウガンダへの親しみをもつ。また、違いはあっても同じ一人の人間として、多様性を認める心を育てる。</p> | 各グループに写真を提示し、日本に住む自分たちの生活と似ているところや違うところを見付ける。その後、全体で共有する。また、写真を通して、ウガンダで生活する人たちの気持ちを考えることで、違いはあっても優劣はないことに気付く。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ウガンダの子どもたちからのメッセージ</li> <li>・振り返りシート</li> </ul>                                 |
| <p>※関連する教科:外国語科「Unit 5 Where is it from?」</p> <p>自分たちの身の回りにあるもの、食べ物がどこの国から来たものなのかを調べて発表し、掲示物を作ることで、日本に住む自分たちと世界とのつながりを感じられるようにする。</p> |   |  |   |
| 4   | <p>○世界の人々を想って</p> <p>ねらい:日本人としての自覚や誇りを持ち、進んで他国の人とつながり、国際親善に努めようとする態度を育てる。</p>                                 | 読み物資料を通して、岸田さんがどのような思いでエンザロ村での活動をしたのかを考える。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「エンザロ村のかまど」(東京書籍)</li> <li>・振り返りシート</li> </ul>  |
| 5<br>本時   | <p>○世界とつながるわたしたち</p> <p>ねらい:互いの文化を尊重しながら、進んで他国の人々とつながろうとする態度を育てる。</p>   | 本単元の授業を振り返り、異なる国や文化の人たちと仲良くするために大切なことや今や将来の自分にできることを考える。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケート結果</li> <li>・本単元の授業の写真や振り返りの記述</li> <li>・ワークシート</li> <li>・振り返りシート</li> </ul>                           |

## 6. 本時の展開

|        |   |  |   |
|--------|---|--|---|
| 時間     | 第5時   |  |   |
| 本時のねらい | これまでの学習を振り返りながら、異なる国や文化の人々と仲良くするために大切なことを考えることを通して、互いの文化を尊重しながら、進んで他国の人々とつながろうとする態度を育てる。  |  |   |
| 過程(時間) | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態  | 指導上の留意点(支援)  | 資料(教材)  |
| 導入(5)  | <p>1 これまでの学習を振り返り、本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">異なる文化の人たちと仲よくするために大切なことは何かな。</div> | これまでの学習内容や振り返りの記述を確認することで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 | <p>【資料1】事前アンケート結果</p> <p>【資料2】本単元の授業の写真や振り返りの記述</p> |

|             |  |  |   |
|-------------|--|--|---|
| 展開<br>(25)  | 2 異なる文化の人たちと仲良くするために大切なことや今、将来の自分にできることについて考え、グループで話し合う。 | 中間共有の時間を設け、他のグループの意見を聞くことで、多様な意見にふれたり、その後の話し合いを深めたりすることができるようにする。            | 【資料2】<br>本単元の授業の写真や振り返りの記述<br>【資料3】<br>ワークシート |
| まとめ<br>(10) | 3 本時の学習を振り返り、異なる文化の人たちと仲良くするために大切なことや今、将来の自分にできることを記述する。 | 異文化理解について自分なりの考えを書いている児童の振り返りを取り上げ、全体で共有することで、これからの生活での実践意欲につなげることができるようにする。 | 【資料4】<br>振り返りシート                              |

## 7. 評価規準に基づく本時の評価方法

授業中の話し合い活動の様子、ワークシートや振り返りの記述からみとる。

## 8. 学校外との連携

- ・ガーナ出身の方からアフリカの楽器を借りた。
- ・あしながウガンダの子どもたちとのオンライン交流を行った。

## 9. 児童の学びの軌跡

### 【第1時の振り返り】

学級活動「ウガンダやアフリカの文化を体験しよう。」

- ・先生の話の聞いたり、実際に体験をしてみたりして、国や地域によって文化や暮らしが全く違うことに気がきました。次の授業では、「ウガンダの学校ではどんなことを学んでいるのか」、「ウガンダにはどんな祭りがあるのか」、「ウガンダの人とはどのような暮らしをしているのか」を知りたいです。そして、実際に交流もしていきたいです。
- ・日本の文化と同じでないことは知っていたけど、実際に体験してみると、10Lの水を運ぶのは大変だなと思いました。次の授業では、リモートで交流などをして、ウガンダの人についてもっと知りたいです。
- ・ウガンダは日本よりも発展していないけれど、みんな笑顔で生活していることが分かりました。先生のスライドを見て感じる事ができました。次の授業は、またウガンダの体験をしてみたり、うちわを渡した子どもたちとオンラインで交流してみたりしたいです。

### 【第2時の振り返り】

外国語科「うちわを送ったウガンダの子どもたちと交流しよう。」

- ・交流をしていろいろなことを話すことができた。みんな楽しんで話すことができた。ダンスとかも見る事ができて、交流することでいろいろ知ることができた。ウガンダはいくつもの言語があることも知ることができてよかった。思っていたよりも多く会話をする事ができて楽しかった。
- ・今日の授業でウガンダの人たちと交流をしました。ウガンダの人たちの英語で少し曖昧なところもあったけれど、理解して通じ合う事ができたと思いました。自分たちが知らない遊びや文化を知ることができました。また、ウガンダの人たちと交流したいなと思いました。これからもっとウガンダのことを知りたいです。
- ・今日はウガンダの人たちとオンラインで交流した。相手の人たちはノリがよくて、結構話しやすかった

です。好きなことや好きな教科など、英語だと他の国の人も話すことができるということが分かった。これから海外の人と話すときには、英語を使っていきたいと思った。

- ・今日の授業では、時々分からなかったり、伝わらなかったりしたこともあったけれど、様々なことを伝えたり聞いたりして、ウガンダについて知ることができました。交流を通して、言語が違って、英語を通して相手のことを知ることができてよかったです。

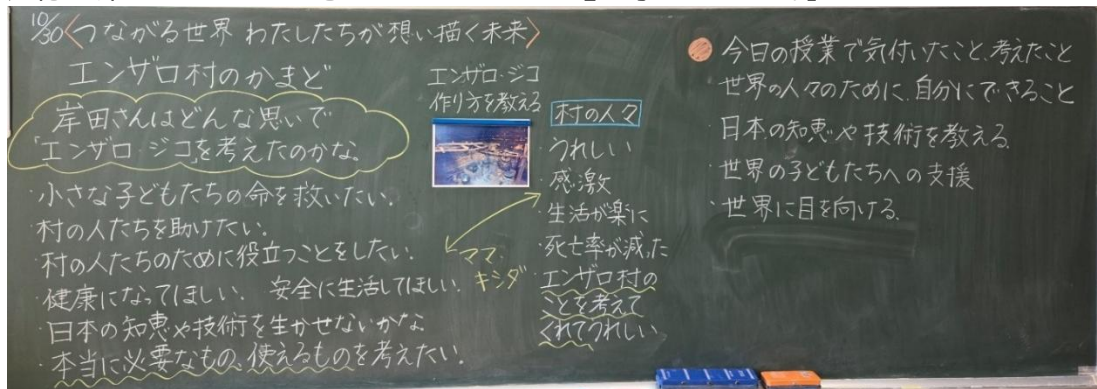
### 【第3時の振り返り】

学級活動「同じところもあるのかな。」

- ・生活や文化など違うところもあるけれど、使っているものや気持ちなど同じところもあった。同じところにもみんな違うように、気持ちや考え方が違うのが当たり前だと思うから、違う国でも同じように仲良くしたり話し合ったりできると思った。
- ・今日は、文化や国が違って、心は同じところがあるということに気付きました。楽しそうな様子や学校生活を送っている様子が同じだったからです。これからは、文化や国が違って、同じ人間だということを忘れないようにしていきたいです。
- ・今日の授業では、ウガンダと日本で違うところや同じところを考えて、文化などが違って心は同じところが多くあることが写真から分かりました。これからは、ウガンダの人たちの願いなどを考えていきたいです。

### 【第4時の振り返り】

道徳「岸田さんはどんな思いで『エンザロ・ジコ』を考えたのかな。」



- ・今日の授業では、本当に必要なものがお金とか最新技術だけじゃないことに気付いた。それに、相手の思いを考えてものを与えるだけじゃなく、伝えることが大切だと考えた。世界の人々のために必要なものを支援したり、自分がやっていることが当たり前だと思わず、困っている人たちのことを考えたりすることができると思った。
- ・今日の授業を通して、水道や電気、ガスがないところもあり、そういう地域に行っている人もいると分かりました。そして、本当に相手が必要としているもの、ことを考えて行動することが大切だと分かりました。世界の人々のために、自分は岸田さんみたいに技術を伝え、便利にすることはできないけれど、貧しい国に対して、差別や偏見をもたずに、できたら寄付をして現地に行く人のためになることを少しでも行いたいと思いました。
- ・今日の授業で気付いたことは、人を想う心、気持ちは大切だということです。世界のためにできることは、今の自分にはないかもしれないけど、将来は人のためになることをしたい。次の授業では、今の自分にできることを考えたい。

### 【関連】外国語科「世界とのつながりを発表しよう。」

自分たちの身の回りにあるものや食べ物がどこの国から来たものなのかを調べて発表した。また、発表した内容で掲示物を作成し、世界地図に貼ることで、子どもたちは、日本にいても様々な国とつながっていることに気付いた。



### 【第5時の振り返り】

道徳 「異なる国や文化の人たちと仲良くするために、大切なことは何か。」

つながる世界 わたしたちが想い描く未来

異なる国や文化の人たちと仲良くするために、大切なことは何か。

- お互いにコミュニケーションをとる。
- お互いの文化を否定しない、受け入れる。
- 自分の文化を知ることが大事。
- お互いの文化を伝え合う。
- 相手の意見を尊重する。

今の自分にできること

- 相手のことを自分から知ろうとする。
- 自分の国の文化について知る。
- 英語を勉強する。

将来の自分にできること

- 岸田さんのようにボランティアで支援する。
- 募金をする。 現地に行く。
- 技術を伝える。 助け合うこと。
- 文化をまもる。

- 異なる国や文化の人たちと仲良くするためには、お互いの文化を否定しないことやお互いの文化を教え合うことが大切だと思いました。また、友達の話聞いて教え合うことも大切だけど、元々の文化をなくさないようにすることも大切だと思いました。これからは、伝えたい文化や相手の文化を調べたいです。
- 今日の授業を通して、異なる国や文化の人たちと仲良くするためには、お互いの文化を否定せず、受け入れることや相手の文化を壊さないように気を付けることが大切だと思いました。また、技術を伝えるときには、相手の文化を守りながら相手が本当に必要としていることを考えることを意識することが大切だと思いました。次は自分の国や相手の国の文化を実際に調べたいです。
- 今日は異なる文化の人たちと仲良くするために大切なことは何かを考えました。お互いの文化や習慣を否定しないだけでなく、寄り添うことも大切だと分かりました。将来の自分にできることは、募金やボランティアだけでなく、その国の文化を守ることなどもあると思いました。次はその国の文化を調べたいです。
- 今日の授業では、異なる国や文化の人たちと仲良くするには、まず他の国、自分の国を知ることが大切だと思いました。グループの人と話してみて、文化や国のことを否定しないことも大切だと思いました。そのこともふまえて、相手の国のことを調べるのが今の自分にできるし、自分の国を伝えることが将来の自分にできると思った。
- チームで話し合っ、仲良くするには、交流、コミュニケーションを取ることやその国の文化にふれるということが大切という意見が出てきました。また、文化は壊してはいけないので、文化を壊さずによりよいものを実現していきたいです。これからは、自分の国の文化について調べたいです。

## 10. 自己評価

### ① 成果が出た点

- ・ウガンダは、外国語科の教科書に載っており、授業でも取り上げたが、子どもたちにとっては、「遠い国」「知らない国」であった。けれども、子どもたちは、事前学習のうちわ作りから、ウガンダに興味をもって取り組み、「ウガンダについてもっと知りたい」「ウガンダとつながりたい」という思いがみとれた。そして、本単元を通して、「ウガンダの子たちともっと交流したい」「文化が違って同じところがある」といった姿からみとれるようになり、ウガンダが子どもたちにとって「親しみのある国」になっていった。
- ・第2時のあしながウガンダとのオンライン交流では、グループごとに、積極的にコミュニケーションを行う姿が見られた。自己紹介をし合うだけでなく、好きなもの、遊び、将来の夢など、簡単な英語を用いてやり取りを行っていた。また、お互いに歌を歌ったり、ダンスを見せ合ったりし、子どもたちは時間が経つのが早いと感じたようで、「楽しかった」「もっと交流したかった」と述べた。さらに、子どもたちの振り返りには、「英語が伝わってうれしかった」「英語だと他の国の人とも話すことができるということが分かった」「交流を通して、言語が違って、英語を通して相手のことを知ることができてよかった」との記述が多く見られた。コミュニケーションのツールとして英語を学ぶ意義を見出していた。
- ・第3時では、最初は表面的なところに目が向いていたが、「学校生活楽しそう」「笑顔で過ごしている」など、少しは気持ちも面への気付きがあった。また、全体での共有の際には、「国や文化は違って、同じ人間である」という意見も挙がった。さらに、国や文化の違いもあるが、「同じ国の中でも一人一人違うのは当たり前である」という、多様性を認める考えが出たことも、ウガンダを通して共生社会を考えることにつながったため、一つの成果といえる。
- ・第4時では、読み物資料を通して、先進国だから一方的に与えるのではなく、相手の思いにも目を向け、相手とのコミュニケーションを大切にしながら、相手が本当に必要としているもの、本当に使えるものを支援する必要があることに気付いた。また、国際理解のために、今の自分にできることや将来の自分にできることについて考えるきっかけとなった。
- ・第5時では、事前アンケートで聞いた「国や文化の異なる人たちと仲良くするために大切なこと」について、グループや学級全体で話し合った。ほとんどは事前アンケートで出た内容と同じ意見が挙がったが、「自分の文化を知ること大切」という意見が加わった。他者を知ることで、自分自身の文化や価値観を見つめ直す機会にもなったと考える。また、今の自分にできること、将来の自分にできることを話し合った際には、「技術を伝えて便利にするのもいいけど、その文化を守ることも大切」だという考えを出し、どちらがよいのかと悩んでいるグループがあった。授業者の想像を超えた深い話し合いができていたグループがあったことで、学級全体の話し合いの深まりにもつながった。

### ② 苦労した点

日常生活で国や文化の異なる人たちと関わる機会は多くない子どもたちにとって、異文化理解の上で大切なことは分かっている、「今の自分にできること」「日本人の自分としてできること」「将来の自分にできること」などについて実感を伴って考えさせることは難しく、最初はなかなか思いつかないという子もいた。子どもたちにとって現在はあまり身近ではない課題を自分事として捉えられるようにするためにも、子どもたちに考えさせる内容の精選、資料の提示の仕方、教師のファシリテーターとしての役割などが大切だと改めて実感した。

### ③ 改善点

本単元の学習を通して、「アフリカの国＝貧しい国」という偏ったイメージで、「空港はあるのか」「インターネットが使えないのではないか」と言った発言をする児童がいた。その国や文化だけでなく、一人の人に対してもバイアスがかかった見方をしている児童がいるのが現状である。これは、日常生活の中で、国や文化の異なる人、障害を抱えている人、LGBTQなどの多様性にふれる

機会やそれらについて知る機会が少なかったことが原因だと考えられる。普段の授業の中でも、子どもたちが国際理解教育や共生社会の視点で考えたり、物事を多面的・多角的に捉えたりすることができるようにしていく必要がある。

また、ウガンダを通して、子どもたちに異文化理解で大切なことや自分たちにできることを考えさせる上で、今回提示した資料や内容が適切であったかについては検討が必要である。子どもたちに与える情報を精選し、子どもたちの思考を促すものを提示できるようにしたい。

#### ④ 自由記述

今回の授業を6学年全体で実践したかったが、時間を確保することが難しく、1クラスのみの実践となった。今回のような学習が国際理解教育のための特別な授業ではなく、様々な教科・領域の学習と関連付け、小学校6年間の教育活動全体で体系的に取り組めるような計画を作成することで、様々な教員が普段の授業の中で国際理解教育を取り入れていけるようにしたい。

### 11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

・校内にウガンダコーナーを作成した。

→ウガンダクイズ、ウガンダのお金、ウガンダについての記事等を掲示した。また、子どもたちが実際に楽器やクラフト、アフリカ布、ウガンダの子どもたちからのメッセージなどに触れられるようにした。



- ・教科横断的な学習になるように6学年担当教員と内容を検討し、授業に協力してもらった。
- ・全職員に本単元の学習案を配付し、自由に授業を参観してもらえるようにした。
- ・電子連絡帳にて、保護者に子どもたちが学習した内容や様子(写真)を伝えた。
- ・本単元の授業を茨城大学教育学部の学生(教育実習生等)に公開した。

### 12. 自由記述

省略(同実践者・同校2年生における実践内容に同じ)

### 13. 参考資料

| 資料名                 | 著者名等                            | 出版元、URL等               |
|---------------------|---------------------------------|------------------------|
| JICA 中部教師海外研修ガイドブック | 執筆・編集<br>NPO 法人 NIED・国際理解教育センター | 独立行政法人国際協力機構<br>中部センター |

## 14. 本時で使用した資料

### 【資料1】事前アンケート結果

〈事前アンケートより〉

○異文化理解で(国や文化の異なる人と仲良くするために)大切なことは何だと思いますか。

- ・お互いを知ること。 ・他の国のことを知ろうと思うこと。
- ・相手の国の文化や習慣を理解すること。
- ・異なる文化を否定しないこと。
- ・異なる文化を受け入れること。
- ・自分たちの文化を教えたり教えてもらったりすること。
- ・積極的にコミュニケーションをとること。
- ・言葉が通じなくても交流すること。
- ・違う考え方の人の意見を尊重すること。

【資料2】授業の導入で示した写真や振り返りを教室後方に掲示し、話し合いの際に、子どもたちが自由に見られるようにした。



### 【資料3】話し合いで使用した個人のワークシート

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| <p>国や文化の異なる人と仲良くするためにたいせつなこと</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・お互いの国や文化のことを知ろうと思うこと</li><li>・コミュニケーションをとる</li></ul> <p>→お互い分かるように話す</p> | <p>そのために今の自分、将来の自分にできること</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・相手の国のことを調べたりして知る</li><li>・交流をする</li><li>・相手の国の文化を体験する</li><li>・相手の言語を学ぶ</li><li>・自分の国の文化について知る</li><li>・相手の国に行って自分の国の文化について伝える</li></ul> | <p>国や文化の異なる人と仲良くするために大切なこと</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・お互いの国、地域の文化を否定せず、受け入れること</li><li>・お互いの国、地域の文化を尊重すること</li><li>・お互いの国、地域の文化を体験してみること</li></ul> | <p>そのために今の自分、将来の自分にできること</p> <p>〈今の自分〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・世界で一番使われている英語を積極的に学ぶ</li><li>→少しでも国や文化が異なる人と交流がしやすくなる?</li><li>・お互いの国、地域の文化を調べてみる</li><li>・相手のことを自分から知ろうとする</li><li>・寄付などを行う</li></ul> <p>〈将来の自分〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・現地に行って実際に文化を体験する</li><li>・寄付などを行う</li><li>・海外の支援に関するボランティアなどに参加する</li></ul> |
| <p>友達の考え</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・お互いの文化を受け入れること</li><li>・お互いを知ること</li><li>・自分達の文化を教えたりする</li><li>・相手の国や文化のいいところを知る</li></ul>  | <p>友達の考え</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・差別や偏見を持たず接する</li><li>・積極的にコミュニケーションを取ろうとする</li><li>・お互いの文化を伝え合う</li><li>・お互いの国、地域の文化を壊さないようにする(守る)</li></ul>   |  |  |